平和研講演会シリーズ 2004
2004 IIPS Lecture Series
“国際社会の安定と我が国の進むべき道－地球規模問題への取り組み”

IIPS

公開シンポジウム

「国際社会の安定と我が国の進むべき道
-地球規模の問題への取り組み
(我が国の外交安全保障政策の展望と課題)」

2005 年 2 月 2 日　於:全日空ホテル

パネリスト

モデレーター:　薬師寺　泰蔵（世界平和研究所　研究主幹）
パネリスト:　小此木　政夫（慶應義塾大学教授）
大野　元裕（中東調査会上級研究員）
久保　文明（東京大学教授）
中西　寛（京都大学教授）

世界平和研究所は、日本財団の協賛を受け、2005年2月2日、東京全日空ホテルにおいて、パネルディスカッション形式の公開シンポジウム「国際社会の安定と我が国の進むべき道-地球規模の問題への取り組み(我が国の外交安全保障政策の展望と課題)」を開催した。

最初の発表者となった慶應義塾大学の小此木政夫教授は、発表の冒頭、北朝鮮問題での最大の変化は、ローカルであった北朝鮮問題が、大量破壊兵器開発と9.11テロ以後の米国の安全保障政策の変化によって、グローバル化したことであると指摘し、北朝鮮をめぐる情勢や中東との様々な相違点を説明、さらに北朝鮮のリビア方式受入の困難な背景、六者協議と安保理上程の見通し、それに伴う外交的進展の可能性、わが国と経済制裁発動をめぐる状況などについて多くの重要な指摘を行った。

続いての発表者である東京大学の久保文明教授は、冒頭、過去米国においては二期目の政権はうまくいかないことが多いと事例を説明した上で、米国内に依

この講演会は日本財団の助成事業により行っております。

日本財団 The Nippon Foundation

然色濃く残る9.11テロの衝撃が対テロ・コンセンサスを形成する一方、テロの非対称性が外交安全保障政策に影響を及ぼす状況を指摘した。さらに久保教授は、イラク問題に関わる米国の世論動向やブッシュ大統領への支持動向・背景事情について触れた上で、ブッシュ政権の対中政策や欧州・アジアとの関係を説明、9.11以降、中国の協力を必要とする中、微妙なバランスの模索を続けるブッシュ政権が直面する課題についても、きわめて重要で具体的な指摘を行った。

次に、三番目の発表者である京都大学の中西寛教授は、冒頭、現在の国際情勢と百年前の近似部分を指摘し、グローバリゼーションや相互依存意識、進歩主義・進歩史観の進展、帝国主義的現象、金融の重要性増大、貧困問題、ファンタジーの台頭などの類似性について説明、さらに現在のわが国の外交機軸である日米関係、東アジア共同体、国連改革に関わる課題について重要な示唆を行った。

最後に、四番目の発表者である財団法人中東調査会の大野元裕上席研究員は、冒頭、イラクで起こったことの経験を踏まえ、その意味するものを再考したいとした上で、現状、イラクにおける混乱は戦後のゴタゴタというよりも明らかな悪化が認められると指摘した。さらに、大野上席研究員は、イラクでのテロならびに戦闘死者数を例示しながら、ファルージャ掃討などの実例を説明、力による封じ込めには限界があると指摘した上で、テロ防止に関わるサドルシティの事例は貴重な示唆であると述べ、治安措置、復興、政治参加のイラク全土への拡大がテロ封じ込めの極め手となる可能性、あるいは今後の宗派民族対立の表面化の可能性や政治プロセスに山積する課題等についても重要な指摘を行った。

最後に、質疑応答を通じて、各パネリストからさらなる重要課題の抽出と解決への示唆などが示され、講演は締めくくられた。

◘ この講演会は日本財団の助成事業により行っております。

日本財団
The Nippon Foundation

◘ この講演会は日本財団の助成事業により行っております。